



森田 則子

① 来庁者用に、軟骨伝導イヤホンを配置 ② がん患者の外見ケア「医療用ウィッグ助成」

問 耳が聞こえにくい来庁者への配慮

答 耳マークを設置することで、すぐに必要な支援を受けられると考える。窓口に掲示してはどうか。

問 軟骨伝導イヤホンの認識と、今後の配置について問う。

答 耳の入り口付近にある軟骨を振動させて音を伝える仕組みで、これを窓口に配置し、使用することで聞こえづらさが緩和されるなど、効果があるものと認識している。今後は費用対効果やニーズを、勘案しつつ適切に対応して行く。

アピアランスケア
(外見ケア)

医療用ウィッグ助成

問 がん治療しながら、学業や仕事を継続している人が増えている。放射線治療などで外見が変化した人に、医療用ウィッグや、乳房補整下着を助成する自治体が近隣市町でも増えている。本町も助成制度を実施してはどうか。

答 大阪府内でも半数程度の自治体を実施している。成果や課題を確認し、令和7年度実施の是非については、予算編成時期である年内をめどに判断をしたいと考えている。



耳マーク

問 電話リレーサービスの住民への利用促進と周知の取組みを問う。

答 最新のチラシを配架し、IPで周知していきたい。また関係する会議、イベント等での周知も工夫する。



一般質問



中西 顕治

地域公共交通計画の実施状況

4月から能勢町地域公共交通計画に基づき、拡充された施策の稼働状況について確認する。



問 運行エリア外の住民から問い合わせがあるが、どう対応するか。

答 直接役場窓口かホームページを通じて問い合わせをいただきたい。

問 乗継利用の状況は。

答 統計データでは約半数の利用が乗継ぎである。

問 乗継ぎ乗客の増加が見込めるならばエリアの拡大も考えられないか。

答 乗継実績、利用者の増加を含めて、交通事業者と議論をしていきたい。

問 今後の対応は。

答 乗客が定員を超える可能性のある第3便、第6便では続行便を走らせている。今後は1年間様子を見て、中型車両の導入などの協議を事業者としていきたい。



問 妙見口のせ号の稼働状況を問う。

答 2か月間で乗車人数は1030人、1日当たり平均利用人数は24.5人であり、目標値の26人に対して達成率約94%となっており、定期券利用者の継続的な利用が認められる。

問 乗車定員を超える乗客があったと聞くがどう対応したか。

答 続行便を走らせた。

問 今後の対応は。

答 乗客が定員を超える可能性のある第3便、第6便では続行便を走らせている。今後は1年間様子を見て、中型車両の導入などの協議を事業者としていきたい。